

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

税と共に生きる

加須市立北川辺中学校

二年 山田 悠乃

私たちの生活は、税金によって支えられている。普段の生活で「税」という言葉を意識することはあまり多くないが、それは社会を支える大切な柱だ。私たちが毎日通っている学校、授業で使っている教科書、よく使っている道路、公園、病院など、安心して便利な社会の基盤は税金によって整えられている。もし税金がなければ、私たちは安全な道を歩くことも、質の高い教育を受けることも難しくなるだろう。

私は以前、家族と税について話したことがある。そこで、お父さんやお母さんから税金をはらう意味などを教えてもらい、小さい頃から当たり前のように遊んでいた公園、当たり前のように食べていた食事が、みんなで支え合う仕組みによって当たり前にできていたことを知った時、税は単なるお金ではなく、人と人をつなぐ「協力の証」だと感じた。

税金は、病気や災害など予期せぬ出来事から人々を守るためにも使われている。例えば、地震の被害に遭った地域への復興支援や、コロナ禍での医療体制の強化も税金のおかげだ。私の住む町でも、災害時に避難所となる学校や体育館が整備されているが、それも税による支援があるからだを知り、改めてその重要性を考えさせられた。

一方で、税金は正しく使われなければ意味がない。ニュースで税金の無駄遣いが報じられることがあるが、それは社会全体の信頼を揺るがす問題だ。だからこそ、税の使い道について私たちが関心を持ち、意見を持つことが必要だと思う。税金は国や自治体に任せきりにするものではなく、私たち一人ひとりが「よりよい社会をつくるために何が必要か」を考えるきっかけでもある。

私はまだ学生で、税を納める立場にはいない。しかし、未来の自分が社会人になったとき、税を「義務」として払うのではなく、「未来を作るための投資」として捉えたい。そのためには、今から税について学び、社会の仕組みを理解することが大切だと思う。

税は、誰か特別な人のためのものではない。生まれたばかりの赤ちゃんからお年寄りまで、すべての人の暮らしに役立っている。これからの時代、少子高齢化や災害対策など、税の役割はますます重要になるだろう。私たち一人ひとりが「税と共に生きる」という意識を持ち続けることが、安心できる社会を作る第一歩だと信じている。